

超高層物理学分野における データ集約型の科学に関する調査

(情報・システム研究機構 H25年
第一回 融合シーズ探索提案)

小山幸伸(京都大学)

蔵川圭(国立情報学研究所)

佐藤由佳(国立極地研究所)

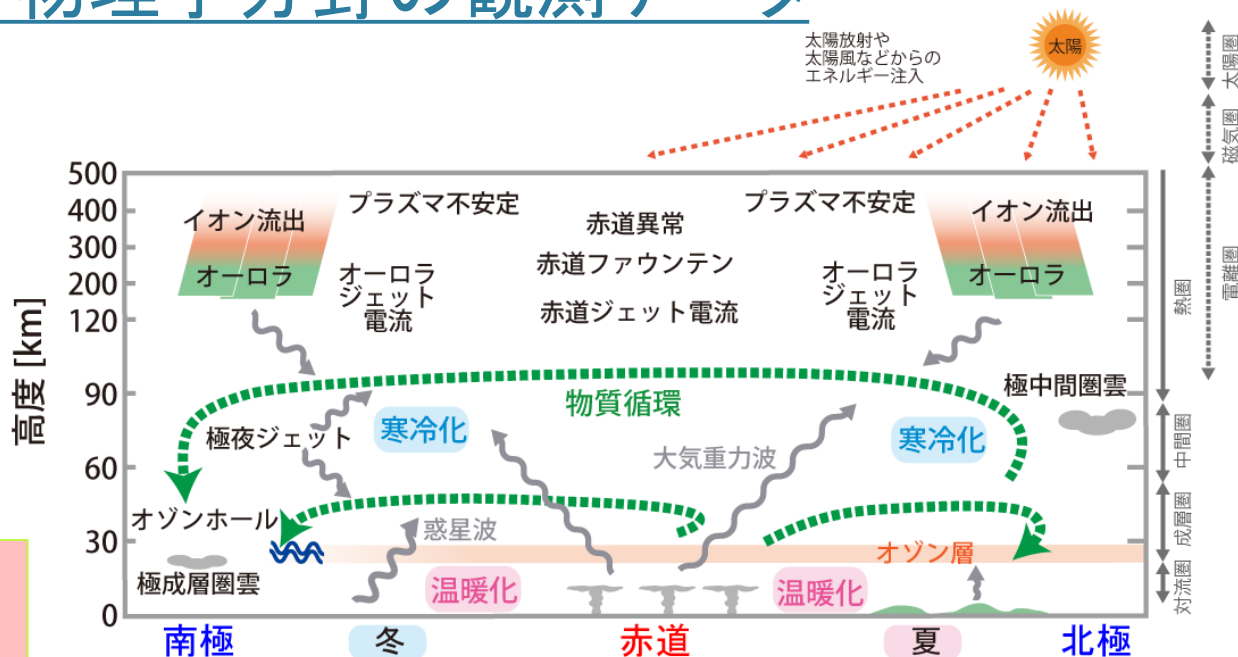
田中良昌(国立極地研究所)

阿部修司(九州大学)

池田大輔(九州大学)

超高層物理学分野の観測データ

- 地表から宇宙空間に渡るグローバルな現象を反映
- 様々な時空間変動の現象を含む
- 取り扱う物理量が極めて多種



➡ 長期データを用いた統合解析が必須

- 日本では、様々な観測データは、各研究機関において分散管理されている。

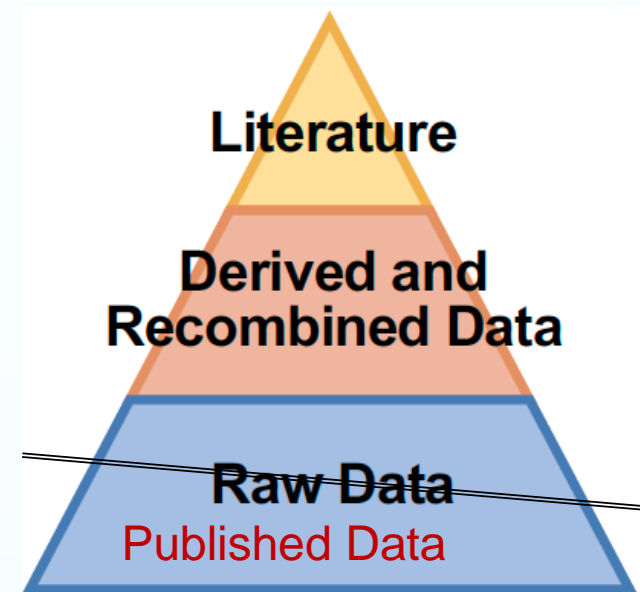


- メタデータ・データベース(データ流通向上の取り組み)
- データ解析ソフトウェア(データ利活用の取り組み)

原点に立ち
返って、学術
情報一般を考
える。

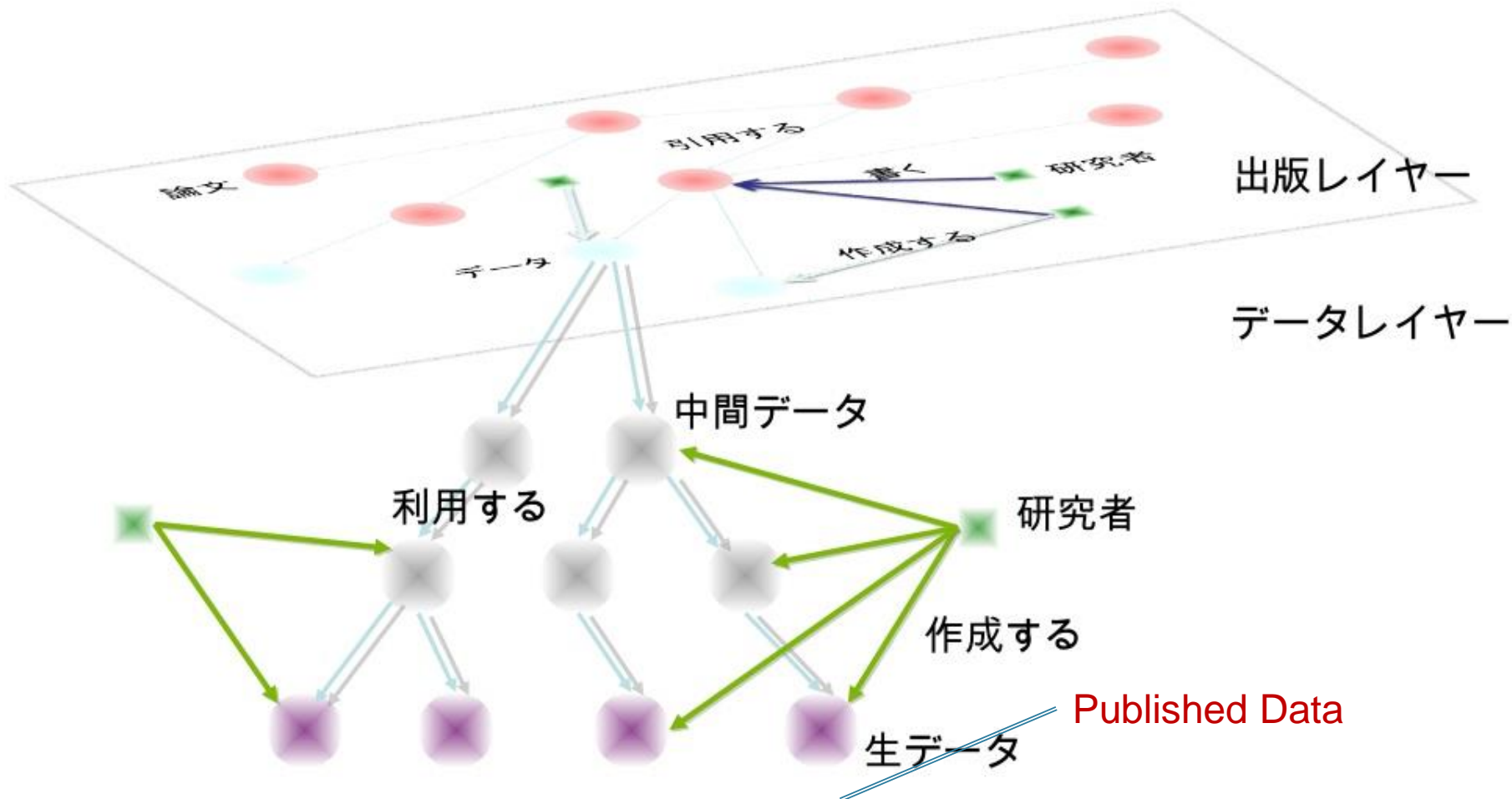
科学的データの階層

- 3つの階層
 - Literature
 - Derived and Recombined Data
 - ~~Raw Data~~ **Published Data**
- 階層の要素
 - 同一の階層の要素は互いに関係を持つ
 - 隣り合う階層を構成する要素が互いに関係を持つ
- ネットワークが分野をまたいだ要素の統合と関連を可能にする。



Tony Hey, Stewart Tansley, & Kristin Tolle (Eds.). (2009).
The Fourth Paradigm: Data-Intensive Scientific Discovery.
Microsoft Research.
Retrieved from <http://research.microsoft.com/en-us/collaboration/fourthparadigm/default.aspx>

データレイヤーとの相互展開



トレーサビリティを真剣に
考える必要性

The Loyal Society of London Philosophical Transactions

4代家
綱時代

Boyleの実験
結果には到
達しない。

タイトルに加え、著者
も
センタリングされた！

約350年前に論文スタイルが確
立！



doi:10.1098/rstl.1665.0007
R. Boyle

doi:10.1098/rstl.1668.0016
G. D. Cassini
This document is provided by JAXA.

論文の変革の兆し

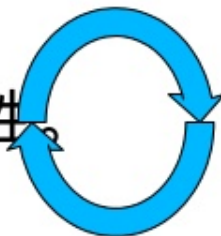
電子化

- PEPS 誌、EPS 誌 → オープンアクセス
- PLOS ONE, altmetrics
 - 雑誌単位の IF 評価 → 論文単位の評価
- PANGAEA & ELSEVIER
 - 地球科学のデータ出版とジャーナル出版の融合

持続可能なデータ公開活動の環境構築が、 地球物理の課題

- 共通認識

- 観測・データ整備等のデータ公開活動の重要性



- 現状

- 研究者が教育・研究の合間にボランティアで活動。
 - データ公開活動そのものは評価の対象でない。

DOIを付与し、Data Publication, Data Citationの仕組みを確立することで、どれだけデータが科学論文に引用されているか、定量化可能になる。しがらみ(特許、倫理、国防、産業)の少ない超高層物理学分野に

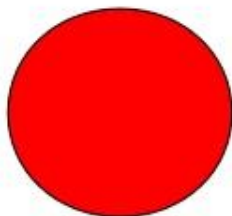
データ公開活動の収益構造の確立

1. DOI をデータセットに付与する。

2. ジャーナルから引用する

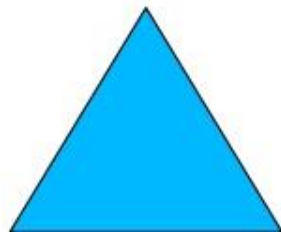
データ提供者側
の

- DOI と ORCID がポイント ... 論文の世界で使われているものと同じ識別子を、データ用に意図的に使う！



データ提供者側

データ利用者
側



資金提供者側

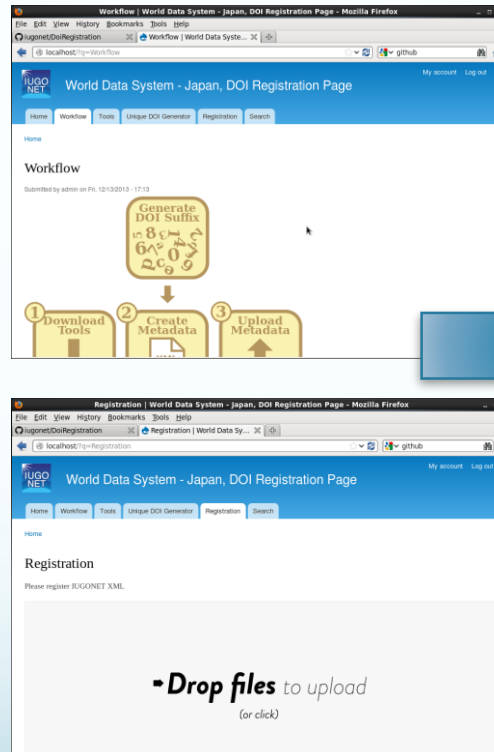
DOI付与の流れ(予定)の一部 (他の流れもある)

NICT

WDCs in Japan

地磁気, Kyoto
電離層, NICT
オーロラ, NIPR
宇宙線, NAGOYA

IUGONET
メタデータ

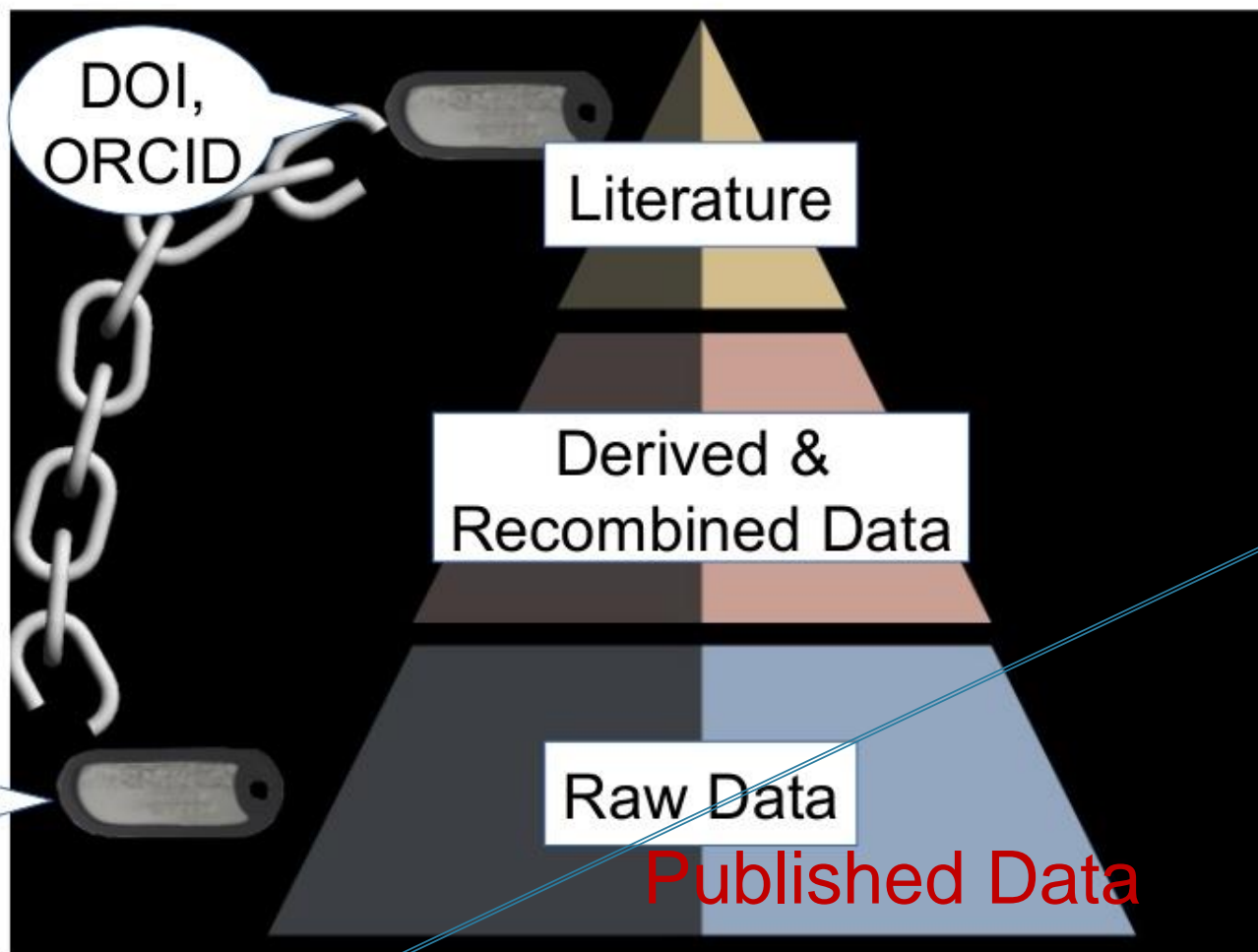


日本にあるRA



2014年夏ごろには、この流れでDOI付与されるか！？

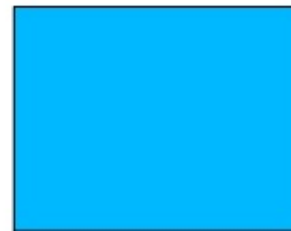
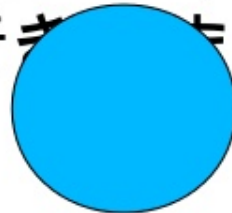
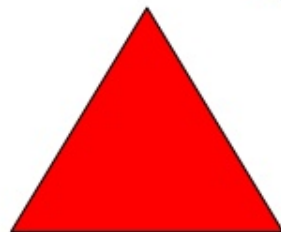
文献とデータセットの結合



文献とデータセットの 不完全

- 現状の Data Publication & Citation は、Journal Publishing 目線。 → 科学的な REUSE ×
- (海外の) 図書館業界 (教育 + 研究支援)
 - ビッグディール問題の次は、科学データ取り扱いへ。 → 行方未定中

データ利用者側



資金提供者側

DataCite XML Schema Ver.3

ID	Property	Obligation
1	Identifier	M
2	Creator	M
3	Title	M
4	Publisher	M
5	Publication Year	M
6	Subject	R
7	Contributor	R
8	Date	R
9	Language	O

ID	Property	Obligation
10	ResourceType	R
11	AlternateIdentifier	O
12	RelatedIdentifier	R
13	Size	O
14	Format	O
15	Version	O
16	Rights	O
17	Description	R
18	Geolocation	R

科学的な用途としては、
データセットの詳細情報が不足

科学的な用途には？

- ドメインに特化したメタデータを用意する必要がある。



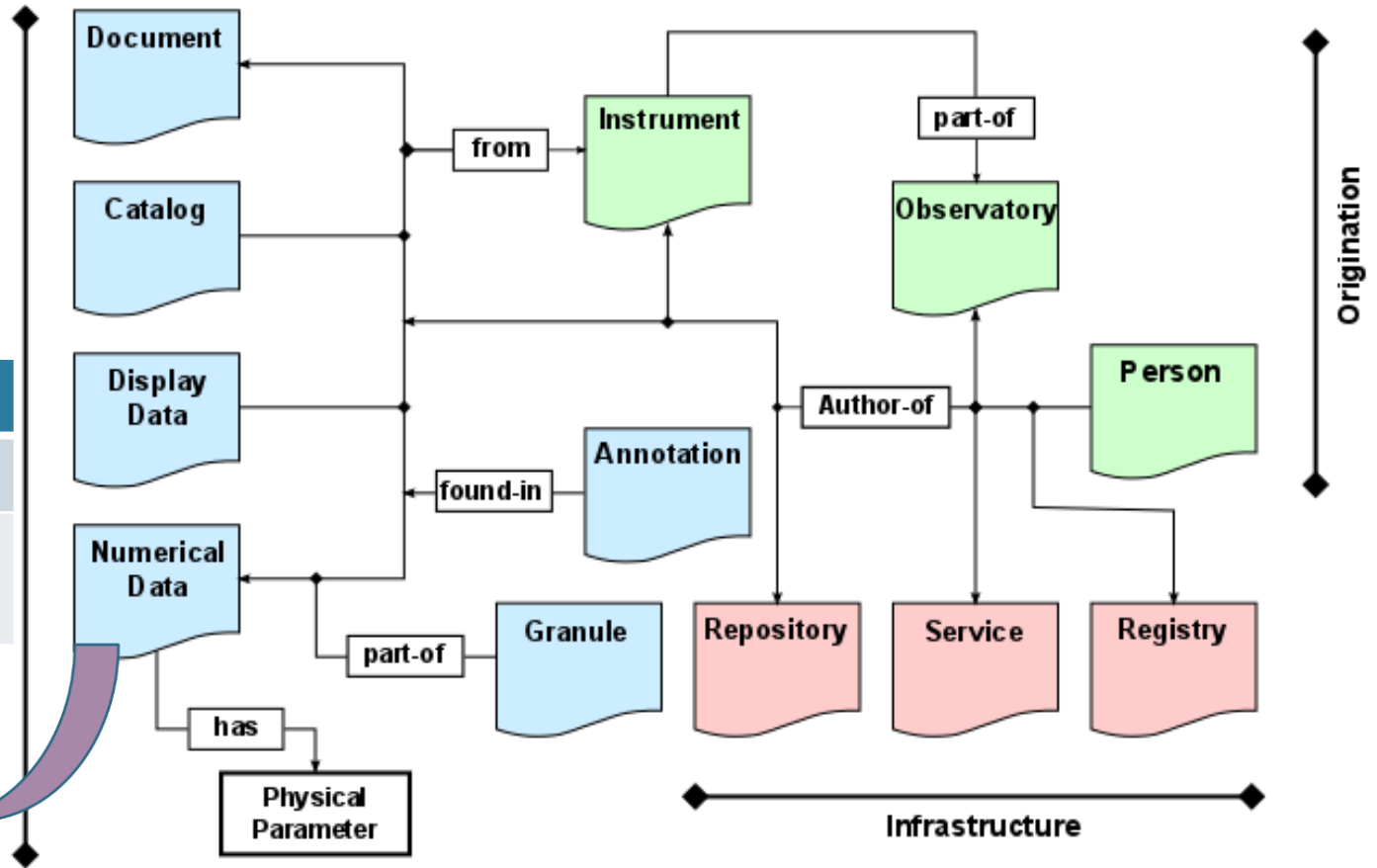
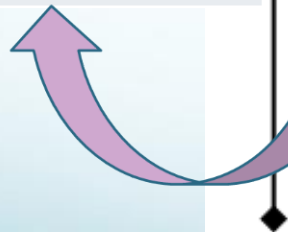
- 超高層物理学ドメインでは、DOI Registration Agencyが管理しているメタデータと、IUGONETメタデータの連携が◎

その1: JaLCのメタデータ

← IUGONETのResourceID

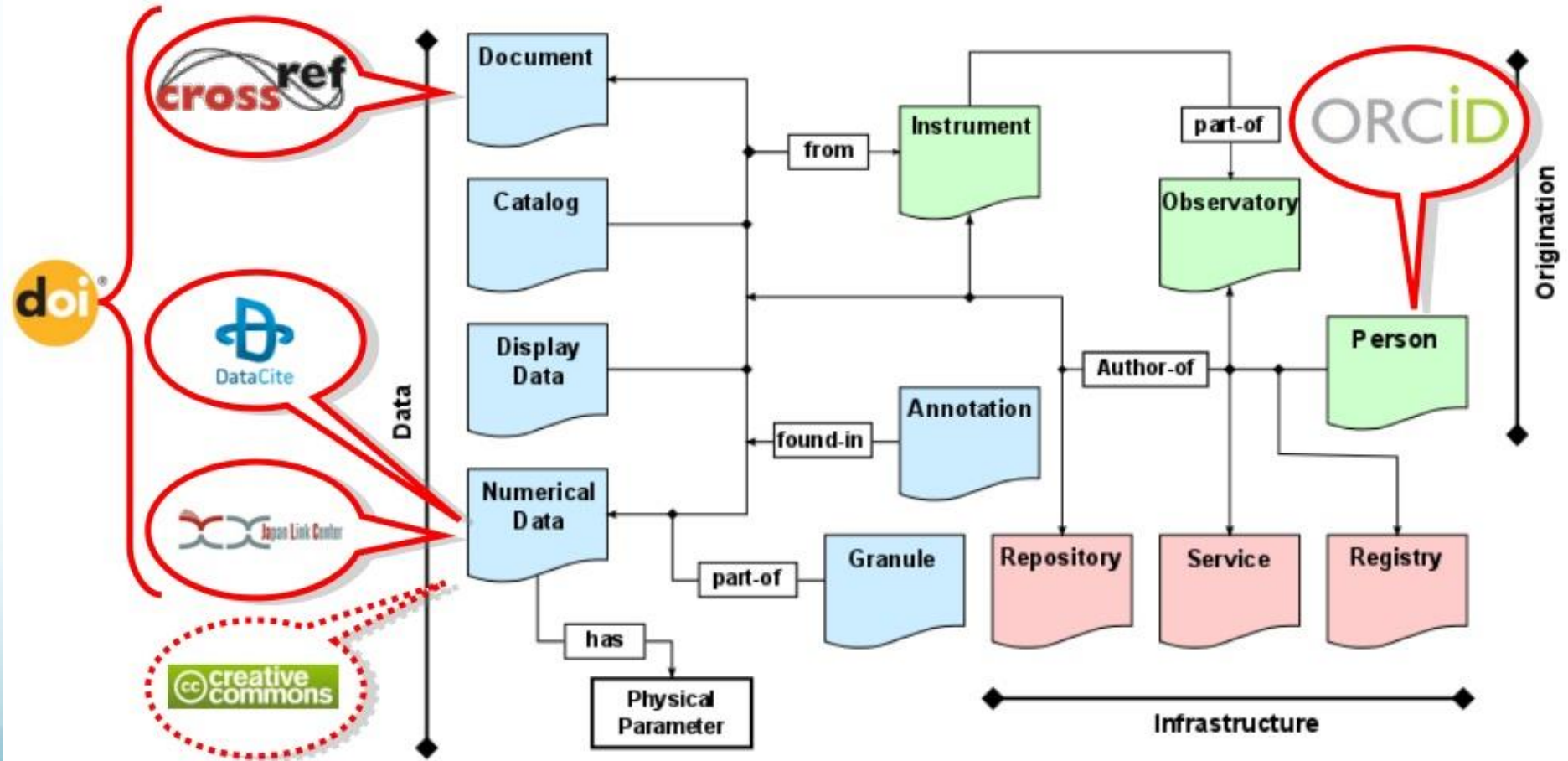
DataCite/JaLC

ID	Property
10	ResourceType
11	AlternateIdentifier



SPASE Data Model

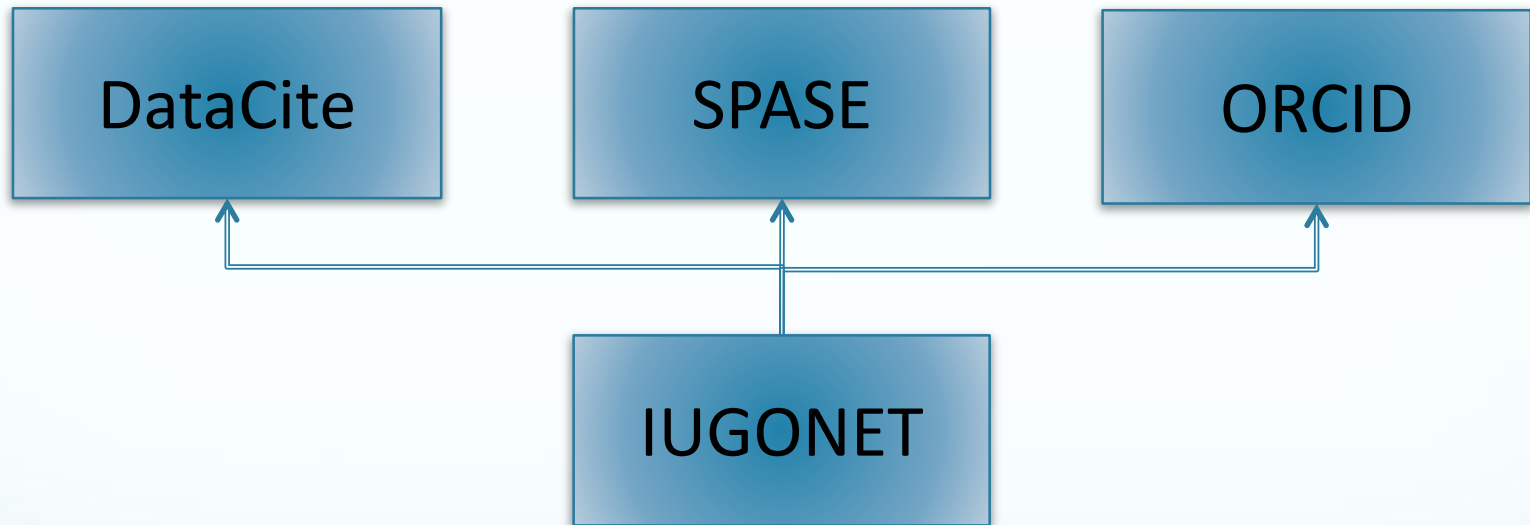
前述の動きに呼応した IUGONET XML Schema の再定義



学術出版を頂点とした科学データの REUSE の準備をした。

IUGONET XML Schema

Ver. 2_2_2_5 (RC)



- CC等のライセンス情報も入力可能な用に拡張済み。
- JaLCのスキーマをincludeするかどうかはTBD。

まとめ

- 日本における、データセットへのDOI付与活動のお手伝いをした(JaLC, WDCs)。
- データ集約型科学に向けた第一歩として、超高層物理学のデータセットへDOIを付与する準備をしている。そして、超高層物理学分野におけるメタデータ・スキーマを整備している。
- JpGUジャーナル(PEPS誌)、SGEPSS等のジャーナル(EPS誌)の投稿規定に、Data Citationを含めるよう働きかけが必要。→ これを動かすためには、「データ引用した学術論文」のモックアップを機関リポジトリ等へアップロードし、そのデータセットへの到達性をデモする。
- 宇宙科学情報学解析論文誌も、Data Citationに関する投稿規定を整備するのはどうでしょう？